

かけがわ学力向上ものがたり

子どもたちの未来のために

人はこの世界に生を受けたときから、毎日が成長の連続です。子どもは自分ができることを一つずつ増やし、自信をつけて一步一步前へ進みます。子どもの得意なことや成長の仕方は一人一人異なります。私たちは、その違いを理解し、個にに応じて、夢や希望、こころざしを育むことが仕事です。

点数だけにとらわれて学力を論じてしまうと、子どものかけがえのない大切なことを見落としてしまうかもしれません。

教育基本法第1条では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」とうたわれています。

子どもたちの未来のために、広い意味での学力が育つ「ものがたり」を導いていきましょう。そして、地域でもグローバルにも活躍できる人を育てていきましょう。

教育長 山田 文子

平成29年3月
掛川市教育委員会

目 次

頁

序 章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい……………	1
第1章 「学力」とは……………	2
1 今求められている「学力」	
2 これからの未来を創り出すために必要な力「かけがわ型スキル」	
第2章 「全国学力・学習状況調査」の分析から……………	5
1 現状と課題	
2 学力の高い子 掛川10の法則	
3 学びの環境改善のための提言	
第3章 学びのものがたり……………	8
1 「新たな学びのプロセス」への転換	
2 言語活動の充実	
3 地域の人に学ぶ活動の推進	
4 読書活動の推進	
5 ICT・外国語活動の推進	
6 読解力を伸ばす問題の作成・活用	
7 市指定研究校による研究成果の共有	
8 学力向上指標	
第4章 家庭のものがたり……………	13
かけがわの子どもたち家庭実践項目	
家庭学習のすすめ「家庭での取組ポイント」	
第5章 我が校のものがたり（別冊）……………	15
学力向上のための取組内容	
※ 各校で作成	

序 章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい

掛川市では、子どもたちが『希望』を持ち、夢や目標に向かって自分を磨くことができ、掛川に誇りと愛着を抱きながら、地域でも、グローバルにも活躍する人に、たくましく成長することを願って、『教育大綱かけがわ』を定めました。

この教育大綱のもと、掛川市教育委員会では、掛川市の教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」において、学校教育の基本目標を「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」としています。

これを受け、各学校は、「人づくり構想かけがわ」の実現に向けて、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことに取り組んでいます。

また、各学校では、習熟度別の学習支援、放課後の教え合い学習、夏休み期間中の補充学習など、様々な工夫をして学力の定着を図る努力をしています。

しかし、今日、学力の低下が大きな社会問題となる中、改めて、学力の捉え方や向上策、学校・家庭・地域の役割などが問われています。

そこで、掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を策定することとしました。

「かけがわ学力向上ものがたり」の構成は、序章「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい、第1章「学力」とは、第2章「全国学力・学習状況調査」の分析から、第3章 学びのものがたり、第4章 家庭のものがたり、第5章 我が校のものがたり（各学校で作成）となっています。

各学校においては、児童生徒の学習実態に基づいた学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成し、それを基盤として全教職員が共通理解のもとに組織的な協働を図り、授業改善に向けて積極的に取り組むことが求められます。

そして、子どもの学力向上の実現に向け、学校と家庭・地域、教育委員会が連携して取り組んでいくことが大切です。

今後、この「かけがわ学力向上ものがたり」のもと、各学校が学力向上に取り組み、掛川の一人一人の子どもを育む教育活動の充実に資することを期待します。

第1章 「学力」とは

1 今求められている「学力」

激しい変化が予想される社会においては、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められるが、そのために、教育は、個性を發揮し、主体的、創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて、生涯にわたり学び続ける力を育むことが必要である。

このために子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」は知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものであり、これを個性を生かす教育の中ではぐくむことが肝要である。

現行の学習指導要領では、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する「生きる力」がこれからの子どもたちに求められている力であることを前提とし、その育成を行っていくために、まずは「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の確実な育成を学習指導要領のねらいの一層の充実のための課題としている。

また、平成32年度に完全実施となる次期学習指導要領においては、新しい時代に必要となる資質・能力として、次の三つの柱が提示される。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
(何を理解しているか、何ができるか)
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
(理解していること・できることをどう使うか)
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

この資質・能力の三つの柱は、学習する子どもたちの視点から整理されたものである。授業者が「何を教えるか」だけではなく、子どもたちが「何ができるようになるか」という学習者の視点を大切にしたい授業改善や教育課程の見直しを図っていくことで、「確かな学力」のより一層の充実を目指していく。

2 これからの未来を創り出すために必要な「かけがわ型スキル」

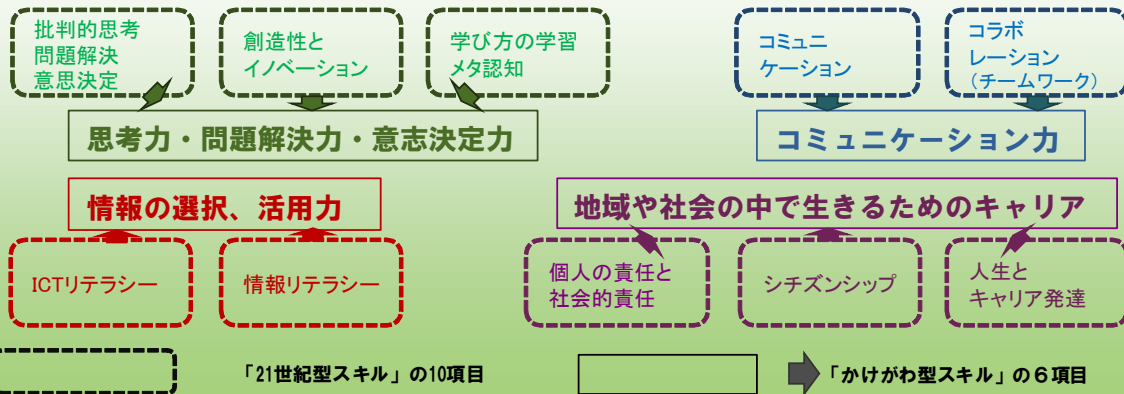
掛川市では、これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とかかわるコミュニケーション能力など、これからの次代を担う子どもたちが身に付けるべき「21世紀型スキル※」を参考にして、「かけがわ型スキル」6項目を定め、言語活動を重視した教育への転換を図ります。

- 「かけがわ型スキル」とは…
- ①思考力
 - ②問題解決力
 - ③意思決定力
 - ④コミュニケーション力
 - ⑤情報の選択・活用力
 - ⑥地域や社会の中で生きるためのキャリア

※世界の教育関係者らが立ち上げた国際団体「ATC21s」(The Assessment and Teaching of 21st-Century Skills=21世紀型スキル効果測定プロジェクト)が提唱する概念。

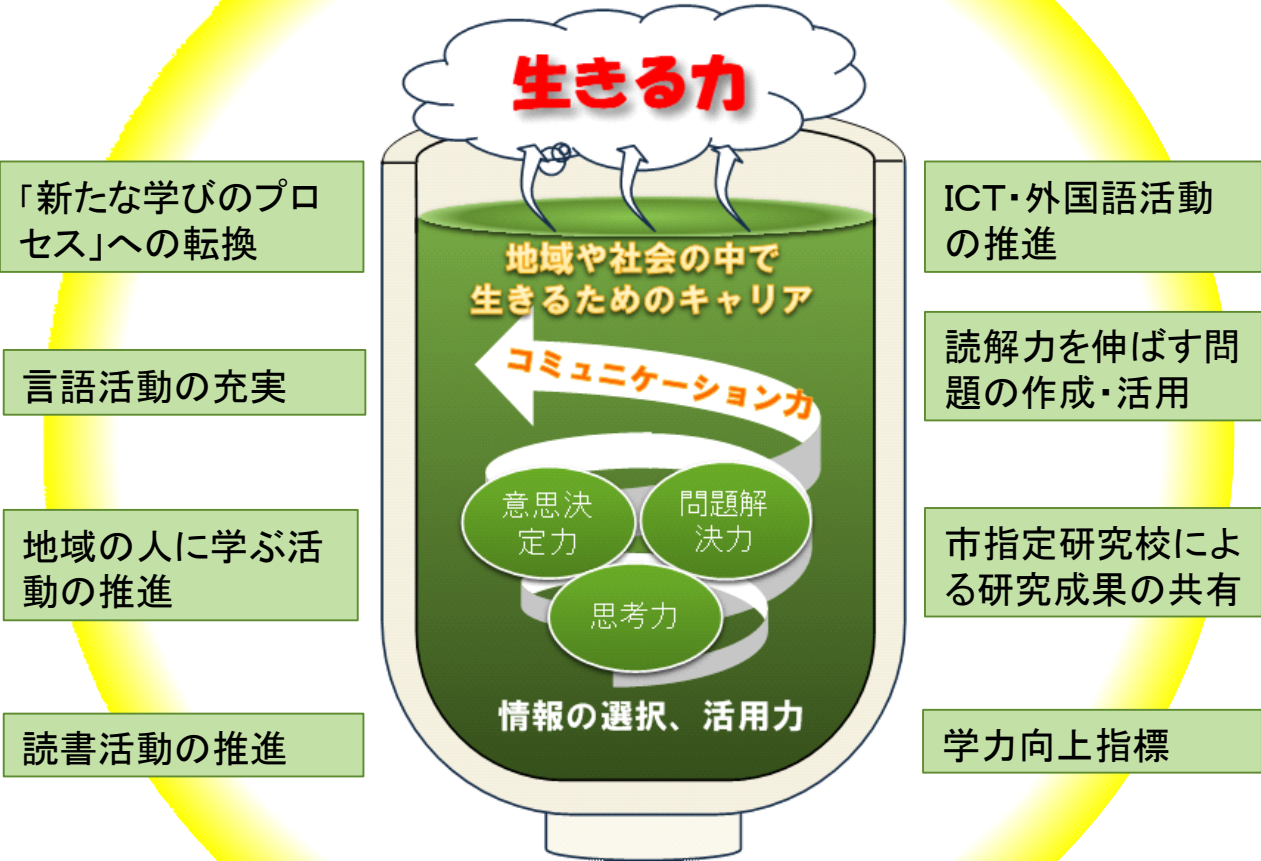
「かけがわ型スキル」と「21世紀型スキル」

「かけがわ型スキル」は、「21世紀型スキル」を参考にして、大切にしたいスキルを、分かりやすい言葉を使って示しました。



かけがわ型スキル~かけがわ茶モデル~

「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる『かけがわの子ども』」



第2章 「全国学力・学習状況調査」の分析から

1 現状と課題

これからの社会は、急激な変化が予想され、周りの状況の変化や環境に適応しながら、困難な状況に立ち向かうことのできる人間の育成が求められています。21世紀を生き抜く子どもたちに、思考力、問題解決力、コミュニケーション力などの必要な力を身に付けるため、掛川市では、学校だけでなく、家庭・地域等が連携して市民総ぐるみの教育を進めています。

全国学力・学習状況調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要です。平成28年度の結果から見えてきた掛川市内児童生徒の学力の概要は、以下のようになります。

※全国・県の平均正答率を100とした場合の市の平均正答率の指標値

【小学校】	小国A	小国B	小算A	小算B
全国比較指標値	109	106	103	103
県比較指標値	104	104	102	103
【中学校】	中国A	中国B	中数A	中数B
全国比較指標値	103	107	104	110
県比較指標値	101	102	102	104

〈教科に関する調査結果から（小学校）〉

- 小学校においては、全国と比較して、国語Aが9ポイント、国語Bが6ポイント高かった。
- 国語では、目的に応じて、書く事柄や質問したいことを整理する力や、ローマ字を正しく読み書きする力が育ってきている。
- 図表やグラフの情報を正確に捉え、それらを基に事実や根拠を示しながら自分の考えを記述する力や、複数の資料を関連づけて読み、目的や意図に応じて考えをまとめる力に課題がある。
- 算数では、整数、小数、分数の計算や単位量当たりの大きさ、直方体の構成要素等、基礎的基本的な知識や技能は身に付いている。
- 日常生活の事象や提示された条件と関連付けて式の意味や数値の意味を理解し、筋道を立てて説明することに課題がある。

〈教科に関する調査結果から（中学校）〉

- 中学校においては、全国と比較して、国語Bが7ポイント、数学Bが10ポイント高く、主として「活用」に関する問題に強い傾向にあるといえる。
- 国語では、話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することや、課題に応じた情報の収集方法を考えて記述することが、全国や県と比較して優れていた。
- 文脈に則して漢字を正しく書くことや、目的に応じて文章を要約することに課題がある。
- 数学では、基礎的な計算や数学的な表現を用いて理由を説明することが、全国や県と比較して優れていた。
- 自然数、一次関数の変化の割合、最頻値などの用語の定着や「同様に確からしい」などの数学的な用語の意味理解に課題がある。

2 学力の高い子 掛川10の法則

「平成28年度全国学力・学習状況調査」において、「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、次のような子どもが、国語や算数・数学の平均正答率が高い傾向にあります。

- ① 朝食を毎日食べている。
- ② 毎日同じ時刻に起きている。
- ③ 自分で計画を立てて勉強をする。
- ④ 1日あたりのテレビゲームの時間がない、もしくは少ない。
- ⑤ 家の人と学校での出来事を話す。
- ⑥ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ⑦ 地域や社会で起こっている出来事に興味がある。
- ⑧ 話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- ⑨ 友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意。
- ⑩ 読書が好き。

3 学びの環境改善のための提言

平成28年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員会の報告書「さらなる学校改善に向けて」によれば、次のように提言がされました。

- (1) 今求められている「学力」について、全教職員が共通認識をもつ
 - ・各学校において、全国学力・学習状況調査問題の特徴を理解したり、学習指導要領のねらいを把握した各教科の単元を構想したりするなどして、今求められている学力がどのようなものかを、全職員が共通認識を持つことが必要である。
- (2) 確かな学力を身につけるための授業改善を強力に推し進める
 - ・単元あるいは1時間の授業の中で「つけたい力」を明確にする。
 - ・単元を通して、「基礎的な知識・技能を確実に習得させること」「習得した知識・技能を活用させること」の授業をバランスよく取り入れる。
 - ・目的や意図に応じて、主体的に学習に取り組むことができる言語活動を設定する。
 - ・自分の考えを既習事項や図・表・グラフ・式等を使って相手に伝えたり、資料から読みとった事柄を根拠にして説明したりする活動を取り入れる。
 - ・実生活と関連づけた内容や発展的な内容、補充的な内容を計画的かつ積極的に取り入れる。
 - ・「まとめの時間」（振り返りの時間）を確保し、授業で活用した用語やきまり、法則等を用いて記述したり、さらに説明し合ったりすることで実感を伴った理解を図る。
 - ・長文や資料を用いて、把握した内容を要約して書いたり、わかりやすく相手に伝えたりする活動を通して、「読み取る力」をつける。
 - ・授業のねらいを達成させるために、ICTを効果的に活用する。
- (3) 生徒指導や学級経営、道徳の授業の充実を図る。
 - ・よりよい人間関係を基盤とした学級づくりや達成感・自己有用感を味わうことができる学級づくりを心がける。
 - ・自尊感情や規範意識を高めたり、自立心を育み積極的に学習に取り組む子どもを育てたりすることをめざし、「かけがわ道徳」を核とした道徳教育の充実に努める。
- (4) 子どもが家庭学習に主体的に取り組んだり、子どもの学びを支えたりする学習環境を整える。
 - ・学校と家庭との連携を図った家庭学習を推進する。
 - ・「教科の力を伸ばす家庭学習」の研究を進める。
 - ・学校支援ボランティア（地域住民・大学生・高校生等）を中心に、学校の補充学習を支援する体制をつくる。
 - ・家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にするように、学園単位で各家庭に働きかけをする。

第3章 学びのものがたり

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、県でのこれまでの一連の動きや市分析委員会による分析結果の報告等を踏まえて、学力向上に向けた掛川市の取組として、以下のような内容を全小中学校で取り組みます。

1 「新たな学びのプロセス」への転換

(1) 学びのユニバーサルデザインを重視した授業

ア 本時で何を学習するのか、何を考えさせるのかをはっきりさせる「焦点化」

- ・子どもたちに学習の見通しを持たせる。
- ・子どもたちが検討したい「問い」を設定する。 など

イ 思考を助けるために、学習している内容をわかりやすく表す「視覚化」

- ・学習の流れがわかるように板書を構造化する。
- ・子どもたちが考えをつくりやすくする教材や教具を工夫する。 など

ウ 個々の考え方を認め、よりよい支援や授業展開を考える「個への対応」

- ・一人一人のよさや困り感を見取り、特性に応じた支援をする。
- ・どの子どもも授業で活躍するために、多様な授業形態を工夫する。 など

(2) 授業過程の再構築

これまでの授業では、導入時の学習課題の提示から学習問題の設定までに、子どもの思考の流れを大事にするあまり、時間をかける傾向にあり、追究やまとめの時間が十分確保されないとの指摘がありました。

そこで、今後は、次のような例を参考に、早い段階で学習の見通しを持たせ、何を考えるのかの「問い」を提示し、追究やまとめの時間を十分確保するように意識化を図ります。

ア 興味のわく導入を工夫し、早い段階で学習問題を扱う。

イ 追究場面に十分な時間を配分する。(調べる、考える、話し合う、やってみる)

ウ まとめ時間を確実に取り、定着を図る。(結論を出す、確かめる、練習する)

<例>

導 入	→	導 入 (5分)
学習課題		学習問題 (5分)
学習問題	→	追 究 (25分)
追 究	→	
ま と め	→	ま と め (10~15分)

(3) 主体的・対話的で深い学びの授業設計（授業過程の質の向上）

ア「解決したい課題や問い」の設定（単元や本時の導入過程）

- 課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。

イ「考えるための材料」の提示（単元や本時の追究過程）

- 複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらを比較、統合することで深い解決策や答えにつながる。

ウ「対話と思考」の充実（単元や本時の追究過程）

- 対話を通して考える時間が十分に確保され、解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされている。

エ「学習の成果」が実感できる振り返り（単元や本時のまとめ・振り返り過程）

- 学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できる。

2 言語活動の充実

児童生徒が、確かな学力を身に付け、豊かにかかわり合うことのできる力を高めていくためには、すべての教科等で「書く」「話す・聞く」「読む」の言語活動を、各教科等のねらいの達成に向けて学習過程に位置付け、充実させていく必要があります。

〈筋道を立てて論理的に考える力〉

- 事実を正確に理解し伝達する。

（例）・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

（例）・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して、自分の生活を管理する。

〈互いの考えを伝え合う力〉

- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

（例）・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

〈自分の考えを自分の言葉で表現する力〉

- 体験から感じ取ったことを表現する。

（例）・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉、絵、身体などを用いて表現する。

- 情報を分析・評価し、論述する。

（例）・文章や資料を読んだうえで、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、400字以内といった条件の中で表現する。

- 手紙や新聞にまとめて相手に伝える。

- 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

（例）・理科の調査・研究において、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。

3 地域の人に学ぶ活動の推進

- 多くの専門的知見を持つ地域の人から学ぶ活動を積極的に取り入れ、本物の体験活動等を通して「かけがわ型スキル」を養う。
- 地域ボランティアや退職教員等による放課後の学習指導等、地域との連携を積極的に行って学習支援を工夫する。
- 学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達段階にふさわしいキャリア教育を推進・充実する。

4 読書活動の推進

- 学校の読書環境が読書活動や指導方法に影響が大きいことから、学校図書館の整備など読書環境の整備を計画的に行うとともに、朝読書、読み聞かせなどの読書活動を通じて読書好きな子どもを増やす。
- 図書のみならず、新聞に積極的に触れさせることで、広い視野に立ったものの見方や考え方ができる子どもを育てる。
- 家での読書活動を充実するよう働きかける。

5 ICT・外国語活動の推進

- 「情報を収集・選択したり、共有したりする」「文章や図・表にまとめ、自分の考えをわかりやすく伝える」「学習内容の定着を確かにする」等、子どもの様々な学習場面においてICTを効果的に活用した授業に取り組む。
- グローバル化する社会において、様々な文化や歴史を有する国の人と関わり合うために、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

6 読解力を伸ばす問題やコンテンツの活用

- 全国学力・学習状況調査の問題や分析委員会調査結果を活用した校内研修を通して、今、求められている学力を教員が具体的に把握し、授業改善に取り組む。
- 「チア・アップシート」や「チア・アップコンテンツ」等を活用し、児童・生徒の読解力を養う。

7 市指定研究校による研究成果の共有

- (1) 大浜中「ICT活用」(平成28・29年度)
- (2) 横須賀小「外国語活動」(平成28・29年度)
- (3) 原野谷中学校区 城東中学校区「小中一貫教育」(平成29・30・31年度)

8 学力向上指標 【◎：目標値を超えた数値 ↑：昨年度と比較して上昇が見られた数値】

A 「学びのユニバーサルデザイン」を重視した授業づくり

◇ユニバーサルデザインに焦点を当てた校内授業研究を実施する。

○国語の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	30%以上	25%以上
平成28年度	29.2%	21.3%
平成27年度	◎30.6% ↑	24.3% ↑
平成26年度	26.0%	22.0%
平成25年度	27.2%	23.3%

○算数・数学の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	46%以上	37%以上
平成28年度	45.9% ↑	27.3%
平成27年度	44.7% ↑	36.5% ↑
平成26年度	44.4% ↑	34.9%
平成25年度	43.9%	35.3%

B 読解力を付ける

◇言語活動を取り入れた授業に全教員が取り組む。

○小学校国語A問題において、学習指導要領の領域等における「読むこと」及び「話すこと・聞くこと」に関する全ての設問の平均正答率を前年度以上にする。

	平成28年度 平均正答率	81.0% ↑
設問2	情報を関連付けながら話し合う。	81.3%
設問5	図と表を関連付けて読む。	95.5%
設問6	登場人物の人物像を捉える。	66.3%
	平成27年度 平均正答率	54.3%
	平成26年度 平均正答率	72.6% ↑
	平成25年度 平均正答率	42.2%

C 「かけがわ道德」を核とした人づくり

◇「かけがわ道德」の授業に全教員が取り組む。

○「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦する」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	24%以上	22%以上
平成28年度	◎26.4%↑	19.5%
平成27年度	◎26.1%↑	21.2%↑
平成26年度	21.1%	20.6%↑
平成25年度	22.4%	16.8%

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	70%以上	75%以上
平成28年度	◎74.0%↑	72.5%
平成27年度	◎71.5%↑	74.3%
平成26年度	72.0%↑	75.6%↑
平成25年度	67.7%	73.6%

○「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	72%以上	51%以上
平成28年度	68.2%	44.7%
平成27年度	71.0%↑	◎51.2%↑
平成26年度	70.9%↑	49.4%↑
平成25年度	69.5%	48.9%

D 家庭での学習習慣を身に付ける

◇家庭学習のあり方について、「かけがわっ子 家庭学習のすすめ」等を参考にして保護者に働きかける。(各学校で、実態に合ったすすめを作成することもよい。)

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	26%以上	18%以上
平成28年度	23.1%	14.2%
平成27年度	25.8%↑	17.9%↑
平成26年度	23.5%	14.4%
平成25年度	23.5%	16.0%

E 本に親しみ、読書習慣を身に付ける

◇図書や新聞などを活用した授業に全教員が取り組む。

○家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書する児童生徒の割合

	小学校	中学校
目標値	37%以上	35%以上
平成28年度	◎39.0%↑	29.3%↑
平成27年度	◎38.3%↑	28.3%
平成26年度	36.5%↑	30.9%
平成25年度	35.6%	32.2%

第4章 家庭のものがたり

掛川市では、学校と家庭や地域などが連携して、市民総ぐるみの教育を進めています。各学校では、創意工夫を凝らした「家庭学習の手引き」を作成するなどして、家庭学習の指導にあたっています。また、各家庭においては、子どもたちの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」を視点に、「家庭のものがたり」の実践をしています。

今後は、さらに、家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にするよう、学校や学園単位等で各家庭への働きかけを行います。

かけがわの子どもたち 家庭実践項目

子どもたちの学力を育むためには、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び行動する等の資質や能力は欠かせません。それらは、「人・もの・こと」と主体的にかかわる、豊かな体験や経験によって磨かれていきます。子どもたちの未来のために、子どもの姿を見つめ、家庭のものがたりをより豊かなものにしていきます。

項目	No.	家庭での取組例 ※「 」は「家庭の101話ものがたり」より
お茶の間で家族と団らんしましょう	①	家族で挨拶を交わしましょう。 「どんな朝でも「おはよう」から始まる朝」「我が家のハイタッチ運動」
	②	学校行事に積極的に参加しましょう。 「目標に向かってともに励む」
	③	将来の夢や希望を語り合しましょう。 「一緒に過ごす時間」「子どもが自分から話したくなるような雰囲気づくり」
	④	お茶の間で過ごす時間を大切にしましょう。 「話をすること」「我が家のお茶の間」
生活のリズムを整えましょう	⑤	早寝・早起きの習慣を身に付けましょう。 「朝早起き、夜早寝」
	⑥	しっかり朝食を食べて登校しましょう。 「我が家の朝食」
	⑦	バランスを考えた食事をしながら、家族の会話を楽しみましょう。 「我が家の約束事」「会話の時間」
学習習慣を身に付けましょう	⑧	継続して学習をしましょう。また、計画を立てて学習をしましょう。予習をして、次の授業に臨む習慣を身に付けましょう。 「漢字テスト～連続合格を目指して～」 「学習習慣・生活習慣」
約束やきまりを守って生活しましょう	⑨	テレビを見たりゲームをしたりする時間やルールを家族と決めましょう。 「SNSを正しく使って、家族の絆」「テレビとゲーム」
本や新聞等を読む時間を増やしましょう	⑩	家庭で読んだ本の感想を語り合しましょう。 「本のある生活」「うちの読書」
	⑪	様々な文章を読み、言語感覚を磨きましょう。 「絵本の読み聞かせ」
	⑫	新聞やテレビのニュースなどに関心を持ちましょう。 「文字に親しむ環境づくり」



かけがわの子どもたち 家庭学習のすすめ「家庭での取組ポイント」

家庭学習の習慣づくりは、学校で学習したことをしっかりと身に付けるためにとっても大切なことです。各御家庭での取組の参考としていただくために、取組事例を紹介します。

項目	No.	家庭での取組例 ※「 」は「家庭の101話ものがたり」より
家庭学習の環境づくりのために	①	学習に集中して取り組めるスペースなどを設けましょう。
	②	お子さんが家庭学習を始めたら、テレビを消したり、音量を小さくしたりしましょう。
	③	学習する場合は、学習に使うものだけを置くようにして、身の回りの整理整頓をさせましょう。
子どもがやる気になるようにするために	④	他の子とは比べずに、よくなったところやできるようになったところを見つけて大いに褒めましょう。 「小1夏から続行中」
	⑤	「この問題、わからない」という時も、投げ出すことがないように「教科書をもってきてごらん」「私ならこうやるよ」などと、子どもの努力に力を貸しましょう。 「苦手な漢字の練習法」「子どもの思い、親の思い」
学校での学習内容を把握するために	⑥	学校からのおたより等で学習内容等を確認しましょう。
	⑦	学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもが頑張っていることや困っていることを理解しましょう。 「3人娘とのコミュニケーション」
	⑧	音読を聞いたり、プリントの丸付けをしたりするなどして、がんばりを褒めるようにしましょう。時には、各教科のノートを見て、がんばりを見つけたりアドバイスをしたりすることも良いでしょう。 「漢字1P」「親子の時間にできること」
子どもの豊かな心や感性を育くむために	⑨	休日には、市内外の美術館やコンサート、自然公園等に出掛けて、芸術に触れたり、自然に親しんだりしましょう。 「キャンプを通じた支援体験及び人間交流」
	⑩	歴史、科学、自然等の学びの本やテレビ番組の視聴を通して、家族で内容について考えたり感想を語り合ったりしましょう。 「折り紙の上達について」「久々の家族旅行は長男の読んだ一冊の本から」
	⑪	手伝いや家事の分担をして、人の役に立つことの喜びを味わわせましょう。あわせて、様々な生活の知恵にも触れさせましょう。 「当番」「二女は小さなお母さん」「おてつだい」

第5章 我が校のものがたり（別冊）

各学校では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで次のような様々な実践を積極的に進めてきました。これを参考に各学校が自校のものがたりをつくっています。

学力向上のための取組内容

1 研修の充実

【各小学校のH28研修テーマ】

じっくり考え、表現できる子～進んでかかわり、自分を深める～
進んで表現し、深め合う授業
思いを受け止め 伝えられる子の育成
～付けたい力を明確にした言語活動と学習問題の設定を通じて～
「やってみたい!」「なぜ?」があふれる授業
～学習問題から、まとめ・確かめる活動へ～
学び合い高め合う授業づくり～「確かな学力」の育成～
自分のよさを発揮し ともに学ぶ子
～「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善～
主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり
「伝え合う子」の育成
自分の思いや考えをより良く表現する表現する子の育成
どの子も学び続ける授業の創造
気付き 考え 一歩踏み出す授業
自主的に学び合う子どもの育成
なるほど・わかったが実感できる子
読む力を付ける説明文の指導～学年の系統性を明確にして～
「説明する力を身につけた子」の育成
「わかった」「できた」があふれる授業～子どもも教師も楽しむ授業を目指して～
主体的に学び「できた」「わかった」を実感できる授業
～問い（学習課題・学習問題）の工夫～
「できた」「わかった」がっぱいの授業 ー主体的に考える子を目指してー
「共に学び合い、できた!わかった!を実感できる子」の育成
自分で考え、自信を持って表現する子
いろいろな相手と進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする子の育成
いきいきわくわく楽しく学ぶ子ども

【各中学校のH28研修テーマ】

じっくり考え 表現できる子 ～進んでかかわり、自分を深める～
仲間との学び合いを通して「わかった」「できた」と感じる授業づくり
学びのユニバーサルデザイン ～一人一人が学びの主役～
生徒が主体的に取り組む授業づくり～考えを深める手立ての工夫～
思考力・判断力・表現力を育む授業
「生徒の学びが見える授業づくり」
～まとめの時間を確実にとり、定着を図る手立て～
主体的に追究・表現し、「わかった」「できた」を実感できる授業
主体的・協働的な学びの研究 ～ICTの効果的な活用～
これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して

2 授業改善

- つけたい力を明確にした単元構成・授業展開の意識化
- 学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）
- 授業過程の再構築を意識した授業展開の工夫と内容の充実
- 主体的に学ぶ意欲を高める授業・主体的に学ぶ姿を見取る視点の共有
- 「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を意識した授業づくり
- 主体的協働的な学び（アクティブラーニング）の視点を取り入れた授業づくり
- かけがわ型スキル6項目を活用する授業づくり
- 探究的な学習や協働的な学習を取り入れた授業づくり
- 子ども主体によるICT機器の効果的な活用
- 見せ合い授業の実施（子どもが1つ上の学年の授業を見る機会の設定）
- 授業改善の共通実践項目を意識した授業づくり
- 子どもが主体的に学ぶ課題設定や板書の工夫
- 振り返りの時間を大切にする授業構成
- 学習規律・ルールの全校共有と徹底指導

3 言語活動や言語環境の充実

- 言語活動の充実を核とした校内研修（国語、算数を中心に）の推進
- つけたい力に則した交流活動の設定・学び合いの時間・対話の時間の設定
- 全学年共通のノート指導及びノート展
- 「今月の詩」、名文の暗唱・音読タイムや音読コンテスト
- 国語辞典の活用推進（一人一冊常備）
- 話す・聴く・書く力のレベルアップのための「名人表」の活用

4 少人数指導・個別支援

- 達成感や充実感を味わわせるために、児童一人一人が学ぶ過程の重視
- 高学年を対象にした少人数指導、T・Tの実施
- 個の特性に沿った指導・内容の定着が不十分な子に対する個別支援

5 習熟度別指導

- 高学年の少人数指導（算数）における、習熟度別クラスの実施
- 課題をやりきらせるための個に応じた指導の実施

6 朝の学習活動

- 基礎学力の定着を目指した国語・算数の学習「ぐんぐんタイム」
- 毎週1回のミニ漢字テスト
- 短時間で条件に合った文を書くことを目指した作文タイムの設定
- 表現力を養うスピーチタイムの設定

7 放課後学習支援

- 年間数回程度、定着が充分でない児童を対象とした「とことん学習」の実施
- 数学の基礎学力の定着に取り組む数学塾の実施
- 週1回30分の学習習熟時間「とことんタイム」
- 放課後学習支援教室「寺子屋」「学びの時間」の開催（週1回実施）
- テスト前の学習相談日・補充学習の設定
- 補習を希望する児童のための月1回のステップアップタイムの実施

8 長期休業中の学習支援

- 夏季休業中に「夏休み寺子屋」「夏休みサマースクール」として、補習学習の実施
- 夏季休業中に「夏休みチャレンジ学習」の実施
- 夏季休業中に水泳学習及び補習学習の実施

9 家庭学習支援

- 「家庭学習の手引き」による家庭学習の充実
- 家庭学習時間の設定
- 「ノーメディアデー」の設定
- 「漢字・数学・英語の1Pノート」への取組による家庭学習の継続

10 読書活動の充実

- 司書教諭や学校司書とのチームティーチングを各学年で積極的に取り入れ、学校図書館を活用した授業の推進
- ボランティアや教師等による読み聞かせ及び読書バイキングの実施
- 毎朝10分間の読書タイムの実施
- 家庭での読書啓発（家読の推進）・親子読書・週末読書
- 読書日記（あい読の推進）
- おすすめの本リストの紹介で読書の質を高める取組の推進
- 読書目標の設定及び、「読書名人賞」「多読賞」による奨励
- 必読図書を読破した児童を賞賛する「読破賞」の設定
- 良書を紹介する図書コーナーの設置

11 ドリル学習

- 基礎学力定着のためのドリルタイムの設定
- ステージ末の「期末ドリルタイム」の設定
- 下校前、算数計算領域の定着を目的にプリント等を使った指導
- 朝のドリルタイムで繰り返し学習を行い、漢字力、計算力を伸ばす指導

12 校内テスト

- 年5回、テスト期間を設定した復習テストの実施
- 「チャレンジテスト」「マスターテスト」による、基礎・基本の定着の徹底
- 毎週1回の国語、算数のテストの実施・週3回の「スタディテスト」
- 定期テストの2週間後に基礎学力テストの実施
- 2回のプレテストにより全員合格を目指した指導

13 調査問題の分析

- 学力調査を採点し、日々の授業に生かすための学力調査採点研修の設定
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入
- 全職員で学力調査の問題を解き、日常の授業を振り返りながら、6年間で子どもたちに付けたい力を再確認

策定に携わった人

◆ 掛川市教育委員会	教 育 長	山田 文子
	教 育 部 長	笹本 厚
	学校教育課長	佐藤 嘉晃
	主席指導主事	田中 浩美
	指 導 主 事	横井 和好
	指 導 主 事	高塚 秀和
	指 導 主 事	山本加代子
	指 導 主 事	殿岡 基弘

◆ 平成28年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員（第2章）

委 員 長	第二小学校長	安田 彰
副委員長	原谷小学校教頭	鈴木 恭子
副委員長	城東中学校教頭	板倉 康弘
委 員	西山口小学校教諭	森下 清茂
委 員	大淵小学校教諭	伊藤 愛
委 員	城北小学校教諭	大庭 章弘
委 員	曾我小学校教諭	内山 春枝
委 員	大浜中学校教諭	山崎 直之
委 員	東中学校教諭	平岡 綾子
委 員	北中学校教諭	富井 定
委 員	西中学校教諭	熊膳 直也
委 員	桜が丘中学校教諭	岡田 智行
事 務 局	学校教育課長	佐藤 嘉晃
事 務 局	学校教育課指導主事	殿岡 基弘